

---

サンスクリット語文法ノート (5)

## Wackernagel の法則

松浦 高志

---

Wackernagel の法則は、もっとも簡単には「前接辞 (enclitic) は文の二番目の位置を占める」と述べられる。この法則の典拠は Wackernagel, „Gesetz“ であるが、この中で古インド・アーリア語 (サンスクリット語) についてはほとんど論じられていない。後で自身もこの法則の発見の功績を Delbrück に帰している<sup>1</sup>。実際彼は、古インド・アーリア語散文では「前接辞は可能な限り文頭へと近づく」という Delbrück の主張と、『リグ・ヴェーダ』では「人称代名詞の前接辞形といくつかの小辞 (particle) は多くの場合詩行の二番目の位置を占める」、「sīm 『彼, 彼女, それを』や smā が二番目の位置を占める」という Bartholomae の主張を引用していたのであった<sup>2</sup>。古インド・アーリア語についての Wackernagel の独自性は, *śúnaś cic chépaṃ nídiṭaṃ saháśrād yūpād amuñcaḥ* (RV V.2.7) で *Śúnaśépa* が複合語分割 (tmēsis) を起こし, その間に前接辞 *cit* が挟まっているという極端な例を追加していることくらいである。したがって発見者の功績を重んじれば, むしろ「Delbrück–Wackernagel の法則」と呼んだ方がよいようにも思

---

<sup>1</sup> Wackernagel, *Vorlesungen*, 46.

<sup>2</sup> Wackernagel, „Gesetz“, 402–403; Delbrück, *Wortfolge*, 47; Bartholomae, *Forschungen*, ii.3, iii.30 n. 1.

われる<sup>3</sup>.

Wackernagel の功績は、この法則が印欧諸語に適用し得るということを示唆している点にある。ただし 100 頁余りの Wackernagel, „Gesetz“ の中で議論されているのはほとんどがギリシア語で、それに加えてラテン語 (pp. 406–425) が、またインド・イラン語派 (pp. 402–406) と、ゲルマン語派 (pp. 425–426), ケルト語派 (p. 406) がそれぞれ短く扱われているだけである<sup>4</sup>.

### ヴェーダ文献の略号

RV Ṛgveda(-Saṃhitā).

### 参考文献

Bartholomae, C., *Arische Forschungen* (Halle: Niemeyer, 1882–87).

Collinge, N. E., *The Laws of Indo-European* (Amsterdam: Benjamins, 1985).

Delbrück, B., *Die altindische Wortfolge aus dem Çatapathabrāhmaṇa* (Halle: Waisenhaus, 1878).

Wackernagel, J., „Über ein Gesetz der indogermanischen Wortstellung“, *Indogermanische Forschungen*, 1 (1892), 333–436 = *Kleine Schriften*, i.1–104.

——— *Vorlesungen über Syntax* (Basel: Birkhäuser, 1926).

——— *Kleine Schriften*, i (Göttingen: Vandenhoeck & Ruprecht, 1955).

——— *Lectures on Syntax: With Special Reference to Greek, Latin, and Germanic*, ed. D. Langslow (Oxford: Oxford University Press, 2009).

——— *On a Law of Indo-European Word Order: Über ein Gesetz der indogermanischen Wortstellung*, tr. G. Walkden, C. Sevdali, and Morgan Macleod, *Classics in Linguistics* 7 (Berlin: Language Science Press, 2020).

DOI: 10.5281/zenodo.3978908

<sup>3</sup> Collinge, *Laws*, 218.

<sup>4</sup> 本ノートは 2016 年 11 月 28 日の梶原三恵子先生の「印度語学印度文学演習(4)」(東京大学文学部)での発表資料に参考文献を若干追加したものである。